

令和7年度 江東区立第三砂町中学校 自己評価表

校長 福田 克彦

目標に向けた取組についての自己評価

| 重点領域1 | | 豊かな心の育成 | | | |
|-------|---|---------|---|------|----|
| 項目 | 努力指標（教師側） | 達成度 | 成果指標（こども側） | 達成度 | 評語 |
| 1 | 健康で安全・安心な学校にするため、道徳の時間確保と充実。人権に配慮した教育活動を通して、生徒に「命を大切にする」「思いやりの心」を身に付かせるよう、取り組んだ状況を100%とする。 | 100% | 「命を大切にし、人を思いやること」ができた」と答える生徒を全学年とも100%を目指す。 | 95% | A |
| 2 | いじめ未然防止・撲滅へ向けた生徒主体の取組を確実（100%）に継続し、『三砂中のレガシー』へと発展させていく。学校を挙げて生徒会本部役員の生徒たちの主体的な活動を支援し、全校生徒が「いじめ未然防止・撲滅」を意識して学校生活を送れる環境を構築する。 | 100% | 「困った時、先生に相談しやすい」のアンケート満足度・達成度90%以上を目指す。 「あなたは楽しく安心して学校生活を送っていますか？」のアンケート満足度・達成度100%を目指す。 | 78% | B |
| | | | | 93% | A |
| 3 | 特別支援教室「つばさ教室」の通級相談等、個々の生徒の特性に応じた指導方法を工夫し、一人一人の教育的ニーズに応えることが出来たとの回答が100%を目指す。 | 100% | 支援活動や個別相談等を通して、個別の達成目標を成就させていくことで、通室生徒の満足度90%を目指す。 | 100% | A |
| 4 | 不登校対応巡回指導員と別室指導担当が連携し、別室入室者を不登校生徒全体の40%以上にする。そして、誰もが安心かつ安全な学校生活を送れるよう教員が取り組んだ状況を100%とする。 | 96% | 通常クラスへの復帰率60%を目指す。 | 0% | C |

<結果についての分析と改善策>

「安心して学校生活を送れる」の回答が93%になった。昨年度から-2%の結果ではあったが、友人関係や教職員との良好な関係が読み取れる。

こうとう学びスタンダード定着度調査におけるいじめアンケートで「決してあってはならないこと」に対する回答で「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の回答とあわせて97.8%になった。さらに、「いじめをなくすために行動している」の設問では、良好な回答をした生徒が91%となり、開校70周年などでの取り組みによる、いじめ撲滅活動の成果といえる。継続して、いじめは「決してあってはならないこと」の認識を一層深めていく。

別室指導に関しては、完全復帰には至らなかった。しかし、巡回指導員・別室指導員・担任・担当教員などが連携して通常クラスとの併用だったり、試行的に通常クラスに入ったりなどの段階を踏む取り組みを進めることで、教室復帰を目指す生徒が23%になった。

<様式1>

| 重点領域2 | | 学力の向上と定着 | | | |
|--|--|----------|--|-----------|----|
| 項目 | 努力指標（教師側） | 達成度 | 成果指標（こども側） | 達成度 | 評語 |
| 1 | 「こうとう学びスタンダード～ネクストステージ～」の確実な定着のために、各教科で調査結果を分析・検討させ、「知・徳・体」のバランスのとれた教育活動を行うことが出来たと回答する教員が90%を目指す。 | 106% | 「こうとう学びスタンダード～ネクストステージ～」定着度テストの各教科の達成度を90%以上にする。 | 70% | B |
| 2 | 三砂中スタンダード①「主体的・対話的で深い学び」②「見通しを立てたり、振り返ったりする学び」③「学習用端末・ICTを積極的に活用した学び」等を積極的に反映させた授業づくりに取り組み、①から③の項目のうち2つ以上を全授業で確実（100%）に行う。 | 100% | 「教員は分かりやすい授業を行い、学習意欲を引き出すようにしている」の保護者・生徒の評価を100%にする。 | 保護 90% | A |
| | | | | 生徒 89% | B |
| 3 | 全教員が、授業、学級活動等において「学び方スタンダード」の徹底に努め、各項目90%以上を達成するよう教員の取り組み状況を100%とする。 | 100% | 全生徒が、「学び方スタンダード」を意識した行動がとれるようになり、家庭学習と授業中の姿勢の項目で達成率80%以上にする。 | 86% | B |
| <p><結果についての分析と改善策></p> <p>こうとう学びスタンダード定着度調査の結果は、達成率70%で、昨年度との比較では限られた生徒との比較ではあるが-1%となり、どの教科・どの学年においても改善の余地があると捉えている。特に、学習の基礎・基本の充実を目指して、授業における「めあて」・「振り返り」を授業ごとで徹底して、三砂中の学習スタンダードとなるよう改善していく。そして、「振り返り」では他者の意見を受け止め、自身の考えを一層深められるよう工夫していく。</p> | | | | | |

| 重点領域3 | | 心身の健康とねばり強さの育成 | | | |
|--|--|----------------|---|-----|----|
| 項目 | 努力指標（教師側） | 達成度 | 成果指標（こども側） | 達成度 | 評語 |
| 1 | 心と体のバランスを崩しやすい中学生の時期に年間2回「心と体のアンケート」を確実に行う。そして、アンケートをもとに大人と話ができる機会を三者面談を含めた年間3回実施する。 | 100% | 生徒アンケートで面談をやってよかったと良好な回答する肯定的評価を90%以上にする。 | 80% | B |
| 2 | 道徳の授業では、「克己と強い意志」に重点を置いた指導をすべての学級で行う。（100%） | 96% | 道徳の授業を通して、「夢や目標に向けて努力することについて考えを深めることができた」の肯定的評価を100%以上にする。 | 90% | A |
| <p><結果についての分析と改善策></p> <p>心と体のアンケートは、長期休業を境として年間2回のアンケート調査を実施し、生徒の不安や悩みに寄り添う面談となるよう進めることができた。今年度から、この機会を利用して、「エールウィーク」週間を設け、意図的に生徒を励ます機会とした。今後も継続し生徒の変化を見逃さない環境づくりを徹底させたい。また、生徒に向けたアンガーマネジメント教育を計画的に行いながら、保護者へもアンガーマネジメントに関してHPや保護者会を通して啓発する取り組みを行うことができた。本校の特色ある教育活動に発展させていきたい。</p> | | | | | |

| 重点領域4 | | 保護者・地域との連携の強化 | | | |
|---|--|---------------|--|------|----|
| 項目 | 努力指標（教師側） | 達成度 | 成果指標（こども側） | 達成度 | 評語 |
| 1 | 学校ホームページの毎日の更新を目指す。 | 100% | 月のアクセス数1000件を目指す。 | 178% | A |
| 2 | 「三砂中支援の会」と連携し、図書館開放、各種検定試験、土曜補習教室への参加を啓発する教員の取組状況を100%とする。 | 96% | 図書室開放、各種検定試験、土曜補習教室への生徒の参加数を前年度比20%増とする。 | 35% | C |
| 3 | 生徒の主体性を啓発しながら、①地域清掃の「クリーン大作戦」②おやじの会主催校内清掃の「草むしり」③地区対主催の「親子スポーツフェア」④生徒会による小学校への「出前授業」など社会に貢献する機会の充実を図る。（100%） | 86% | 「地域で行われる行事に参加している」と答える生徒を90%以上にする。 | 52% | B |
| <p><結果についての分析と改善策> 今年度、学校ホームページの更新に関して組織的な対応となるよう改革を行った。その結果、昨年度よりもアクセス数が56%増加した。保護者や地域への情報発信とともに本校の教育活動への理解を深めることにつながった。一方で、ご意見としては、「すぐーる」での配信を求めるものでした。中学生期における効果的な教育活動となるよう検討を進めてく。 地域行事への参加が教師側の回答では、昨年度より23%増加しているものの、こども側の回答では16%減少している結果となった。引き続き、積極的に啓発活動を行い、地域との連携をさらに深めていきたい。</p> | | | | | |

- 【評語】 成果指標（こども側）の達成度に応じて決定する。
 A：90%以上（目標達成とみなし、次年度は新たな目標を設定する）
 B：50%以上90%未満
 C：50%未満（目標や努力指標等を見直す）